慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	財部静治著 国勢調査問題講話
Sub Title	
Author	園, 乾治
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1920
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.14, No.8 (1920. 8) ,p.1181(153)- 1183(155)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19200801-0153

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

は雲の義とせらるれども、その原義はアイヌが天上にありと考へたる最高位の神靈を指せるものにして、恐らくは日の神なるべし。」（二二六頁）の類である。蓋し言語學に通曉せらるゝ博士に依つてのみ始めて企て得る所であらう。

然し乍ら斯の如き研究方法が果して如何なる程度迄原人の思想風俗を闡明し得るかは疑問である。云ふまでもなく斯の如き研究は生物學人類學經濟學等の援助を待つて始めて有力になり得るものである。單なる語源研究のみを以つてする時は所謂穿鑿好きの遊戯に化し去る虞がある。是は難きを望むことかも知れないが、若し博士にして更に上述の諸學の知識が豐富であつたならば、更に一層得る所が多かつたであらう。本書一讀後何となく物足りなさを感ぜしめるのは恐らくかゝる理由からではないであらうか。

遮莫アイヌ語の研究が「二三篤學の士を除きては、殆んどこれを顧るだにせず、知名の學者にしてなほ且つこの未開語の研究何の用かあらんと放言して憚らざる有樣」なるに博士が特に此の困難なる研究を遂げ眞摯なる所產を公にせられたることに對し、吾人後進者は感謝の言葉を知らない。今後斯の如き研究の益々盛んに發表せられ次第に原始人の生活の闡明せられんことを渴望して止まない。博士の此の著述が動機となつて獨りアイヌ語に止まらず、同じく原始的種族の言語たる琉球語朝鮮語生蕃語等の研究公にせらるゝことを熱望するの餘り、敢て本書に對して妄評の筆を採つた次第である。

（野村兼太郎）

財部靜治著　**國勢調査問題講話**

四六判三五九頁
定價二圓二十錢
京都弘文堂書房

吾が國に於て、國勢調査の實施せらるゝのは今回が始めてである。けれども之れ關にする法律の發布せられたのは、既に明治三十五年のことであつた。この法律の發布當時に於ては、明治三十八年に第一回の國勢調査を行ひ、爾後各々十個年毎に一回、帝國の版圖内に、之れを繼續して行ふ計畫であつた。然しながら、豫定の三十八年には前年に勃發したる、日露戰爭によつて、内外の國事多端の爲めに、之を施行するの餘裕なく、遂ひに延期の已むなきに至つた。故にこの法律は、三十八年二月に一度改正せられ、其の後、四十三年に再び實施の計畫が、稍々具體化されんとしたけれども、之れも中道にして挫折し、實施の機會は、再び失はれてしまつた。かくの如くして、最初三十五年に發布せられたる法律は、最近大正七年に至るまで、十有幾年の長年月を、徒らに黑暗の裡に、過ごさなくてはならぬことゝなつたのであつた。而して大正七年に至りて、漸やく再び光明に接するの機會を與へられ、今年十月一日に、愈々實施の運に立到つたのである。即ち大正七年五月に初めて勅令によりて臨時國勢調査局官制の成立を見、同年九月に施行令が發布せられ、次で翌八年五月には、施行細則に關する閣令、及び之れが取扱規定、心得等訓令の公布を見たのである。

かくの如きは、吾が國に於ける實施の遷延したる、外的事情の一端であるが、國勢調査には之が實施に就いて、國勢調査その物の有する、内的の困難が伴ふを免れぬ。即ち、第一には、

多數の調査員を必要とすること、及び非常に巨額なる費用を必要とすることこれである。第二には、交通の頻繁なることと、人口稠密なるために、脱漏し易きことである。第三には、調査せらるゝ者が租稅、犯罪或ひは兵役、其他の義務を加重せらるゝにあらざるやの疑念より、事實を隱蔽し、或ひは機微に動く人情より、故意に虛僞を報告する虞あること。第四には、調査員、又は調査せらるゝ者が不知不識の間に調査を重複せしむること、等は國勢調査の實施、及び正確なる結果を得難き所以である。

故に、國勢調査を實施して、その效果を十分に發揮せしめ、顯著なる成績を齎さんとするには、單に、國家の努力のみならず、多數國民の十分なる理解と一致とに、俟たなくてはならぬ。國勢調査事業は、國家によつて處理せらるゝものであらう。然しながら、調査の重要材料たる記錄を提供するは、國民各自の任務である。誤つた材料を提供する時は、その處理に、如何に優秀なる技能と、卓越したる才幹を有するものが、その任に方つても、徒勞に終るは說く迄でもない。この點から云つて、當局者に適當なる人を得ることが、必要であると共に、一般國民をして、國勢調査の何たるかを、十分理解せしむることは、又同樣に、或ひはより以上に緊切なることと思ふ。この時に方り、京都帝國大學の財部博士が、「國勢調査問題講話」を出版せられたるは吾人の深く感謝の意を表して已まぬ次第である。

本書の著者財部博士は、高野博士と共に、吾が統計學界に於ける東西の二重鎭である。既に幾多の著書論文を公刊して、斯界に貢獻せらるゝこと、頗る大なることは、吾人の今更絮說する迄でもない。本書は博士が「昨年八月中京都帝國大學夏季講演の一部として」講演せられ「次いで內閣統計講習會に臨み、之と大同小異の講演を重ね」られたる要錄に「多少の補筆を加へて」公刊せられたるものである（序文參照）。

而して、本書の構圖は、全體を先づ大別して、緒言（一—五頁）、總說（五—二九頁）、人口統計の大意（二九—六〇頁）、國勢調査本論（六〇—一六三頁）、餘論（一六三—二一三頁）、及び附錄の六に分ち、之れを更らに、各項目に分ちて、論述して居られる。而して、かくの如き配列により、博士は博士獨特の明快なる筆致を以て其の專門的記述を、平易ならしめんが爲めに、隨處に、卑近なる諸國の傳說、又は各國の有名なる史實を縱橫に用ひて、何人にも興味津々たる裡に、能く博士の力說せんとせらるゝ點を、徹底的に了解せしめざれば止まざるものがある。

而も本書は、單に國勢調査問題に關する一般人士に推薦すべき平明なる講話たるに止らず、斯學の專門家をも益すること多大なる、絕好の著書である。今や吾が國に於ける、第一回の國勢調査の實施期、漸やく迫らんとする時に方り、博士がその該博なる蘊蓄を披瀝して、かくの如き絕好の著述を試みられたることを、斯界のために慶賀し、併せて廣く江湖に紹介する次第である。

（園　乾　治）

野村兼太郎著　經濟的文化と哲學

菊版三百七十七頁定價貳圓參拾錢
東京三田國文堂書店發行

本書は野村氏が慶應義塾理財科卒業論文として阿部秀助教授指導の下に起草せるもの、並に最近一兩年間に「三田學會雜誌」、「改造」及び「三田評論」等に揭げたる諸論文に訂正を加へて集輯せるものなり。序文「眞を求めて」の外、「科學